

World Navi

ワールドナビ Vol. 21
2016 SUMMER

Navi
対談

党人派だからできる“現場感覚”の政治——
そして側近として語る安倍総理の素顔

内閣官房副長官

公益社団法人 国際経済交流協会 会長

萩生田 光一 × 米田 建三

- 特集** 横須賀どぶ板通り『伝説の人物』が証言！
“米軍慰安婦”の知られざる真実—— 時任 兼作(ジャーナリスト)
- 社団レポート** 歴史と文化を知り、ともに支え合うセルビアと交流を深めた学生の集い
- 外国人技能実習制度紹介** ベトナム人技能実習生がやってきた！
- 社団レポート** 【全世界空手道連盟新極真会 東ティモール支部道場設立に向けて】
伝統文化である武道を通して、青少年の健全育成を後押し
そして日本文化を世界へ伝える一助となれば
- 社団レポート** 【横浜でハンガリー・セルビア両国の物産を出展】
『TVK2016秋じゃないけど収穫祭』を彩った異国情緒



Navi 対談

聞き手

公益社団法人 国際経済交流協会

会長 米田 建三

内閣官房副長官

萩生田 光一

党人派だからできる“現場感覚”の政治—— そして側近として語る安倍総理の素顔

地盤・看板・鞆もなかった
かつての二人の共通点

米田 思えば萩生田さんとは長い付き合いになります。あなたが都議会議員の頃に初めてお会いしたんですよ。

萩生田 米田先生が亀井（静香）派の一員としてバリバリ動いていた時代ですよ。

米田 まず初めに八王子市議会議員になられて、そこから都議会議員、衆議院議員へとキャリアを積んでこられました。若い頃から趣旨明快に発言をされ、ご活躍されていきましたから、私も大いに共鳴するものがありました。でも若い頃よりおとなしくなりましたね。

萩生田 若い頃に言いたいことを言っていたツケが今、回ってきています。政府に入ってから、萩生田は最近つまらないなと思われるかもしれません。

米田 しょうがない。おとなしくなったというより責任のある立場になったということですからね。

私が萩生田さんに共感を覚えたのは、政策面だけではありません。政治家になるためにはいろんなコースがありますよね。一つは官僚として経験を積んで政界に入る。もう一つが、親の後を継いで、

その地盤を譲り受けて政治家になる。そしてもう一つが、地方議員として、あるいは政治家の秘書として、努力して頑張つて国政へと出ていく、いわゆる“党人派”です。典型的な党人派でコツコツ努力を積み重ねてこられたから、私も市議会経験者として大いに共感を感じていたんです。ところで、最初はどんなことをきっかけに政治家を志したのですか。

萩生田 私が学生の頃に、都議会議員を目指していた黒須隆一先生（後の八王子市長）と出会ったことが、政治に進むきっかけになりました。学生時代に自分もなんとなく政治家になりたいなと思っていたんですけれど、その頃は“地盤・看板・鞆”（地盤＝選挙区内の支持者の組織、看板＝知名度、鞆＝選挙資金）がないと当選できないのが当たり前前の時代でしたし、夢物語だったんです。

でもたまたま黒須先生の家が近所だったんですよ。都議会議員選挙を約1年後に控えていた頃、今でいうインターンシップ（学生に就業体験の機会を提供する制度）みたいな形で選挙活動を手伝ってくれないかと言われて、事務所に入りました。で、選挙が近くなれば忙しくなつて、学業なんかそつ

ちのけで学生秘書みたいなことをやりまして。そうして政治への憧れが膨らんでいったんです。ただ私の場合、両親が共稼ぎのサラリーマンでお金があるわけでもないし……。まずは地方議員として、27歳の時に初めて八王子市議会選挙に出ました。保守派の方から「萩生田君、若くて元気があるのはいいけど、君は町会の役員をやったことがないだろう」とか言

われました（結果は当時最年少で初当選）。
米田 地方議員になるためのしきたりが各地にあるから、大変だったでしょう。私も東京の出版社の社員から、地盤、看板、砲なしで、横浜市戸塚区選挙区から横浜市会議員選挙に出ました。友人、知人、親戚ゼロ。当時は周囲から「お前、アタマがおかしいんじゃないか」と言われましたよ。



今はすごく増えましたよ。一回政権交代を経て、議員のなり手が少なくなっただけですよ。リスクを取らなくなっただけです。そのときに手を挙げてくれたのが、全国の県議会議員や市議会議員の人たちでした。もちろん世襲の政治家にも優秀な方はたくさんいらっしゃいます。でも野球の世界でいえば、中学、高校、大学とやってきてプロになるのが当たり前なんだ

けど、永田町っていうのは、親父がプロ野球選手だと、野球のルールも知らないのに、子息もプロになれちゃうんだなと違和感を感じたことはありますね。
米田 実際そう思います。だから国政があつて地方の政治がある、地方の政治があつて国政がある。当たり前なのですが、全然違うフィールドとして通用してしまう。ここをどうするかということが、政

地方議員時代の大きな経験

萩生田 私は別に野心があつて国會議員になろうと志を立てたわけではないんです。市議会議員を3期務めたんですけれど、そのときの同期や仲間が皆、親父くらいの年齢ですから、一人だけ若かったんです。背伸びをして同じことを言っても駄目だなと思つたので、同世代の目線で政策をやろうと思いました。

本当に稚拙なことなんですけど、公園のブランコの下はだんだん穴が掘れてきて、雨が降ると水たまりができて使えないんですね。そこで全国の事例を見たら、ブランコの下をカーシートで舗装するという事業がちょうど始まった頃だった。これを市役所で提案して市内のあちこちで直したら、若いお父さんお母さんに評判がよかったです。それと八王子で乳幼児の医療費助成条例をつくりましてね。これは共産党と一緒に提案したんです。

私は自民党ですけど、地方政治ってあまり政党政治が必要ないという思いがあつて、共産党でもいい意見はいいんだと言つたんですけど、これは周りの先輩方からはすごく冷たい目で見られました。

治の課題の一つだと思いますね。

安倍総理が2度目の総裁選に出る際、最後まで反対した

米田 私は安倍総理とは長い付き合いで親しくさせていただいております。今、萩生田さんは側近中の側近で、安倍総理が大変期待しているといわれています。この数年、総理の特別補佐、官房副長官として総理の身近な場所にいらつしゃいますが、身近に見えるがゆえに分かる安倍総理の素顔をどうご覧になっていますか。意外な一面もあるんじゃないですか。

萩生田 間違いなく第1次内閣時と、3年3カ月の政権交代を経て、2回目の登板をされた総理の雰囲気は大きく変わったと思います。すごく安定感があるし、いい意味でしたたかな政治家になられたなという気がします。米田先生もご存じの通り、安倍総理って優しい人じゃないですか。だから情が邪魔をして、今までせつかくかけた情けが、自分に悪い方に返つてきたなんてこともありましたが、この3年間はすごいシビアですよ。

そこで（第1次内閣の）総理大臣を経験したことが生かされてます。過去に安倍総理は閣僚として

た。「萩生田君は若すぎるな」とか言われましたけど、いざ条例が通つたら、市民には評価されるわけです。「政党の前に市民がある」なんて生意氣なことを言いながら実績を積んでいったら、親父世代の先輩たちも「いいじゃないか」と評価してくれて。結局皆が私を育ててくれました。

米田 非常にいい流れですね。私は萩生田さんの地方議会議員の経験ってすごく大きいと思います。充実していたのではないのでしょうか。自分の政治家としての言動がすぐ形になる。私も横浜市会議員の日々のことは克明に覚えています。やつぱり楽しかったです。国会は形になったのかわからなかったのかよく分からない部分があります。

萩生田 大きな歯車の一つとしてやらなくてはいけないときもありますからね。

米田 地方議会っていうのは、最も政治家が自分の努力や発言が具体的に形になって見える場です。だから地方議員を経験した人と、まったく経験してない人と、国政の場では相当違うだろうと思いますね。

萩生田 私は逆に国会に初めて来たときに、あまりの地方議会出身者の少なさにびっくりしました。

官房長官と官房副長官以外にやったことがなかったわけです。だから私は僭越ながら、2度目の総裁選に出るときに最後まで反対しました。まだ時間があるから財務や外務といった主要閣僚を経験してからでも遅くないじゃないかと意見申しました。そんな心配をよそに、堂々たる政治をやっていますね。

私が一番びっくりしたのは外交です。総理には以前から外国訪問へ同行させていただきましてけど、今や世界のリーダーとしての立ち居振る舞い、会議をリードする勘、こういったものには本当に目を見張るものがあります。そして地球儀を俯瞰する外交と称して、海外にも足を付けてきました。それでマルチな会合に行きますとね、待合室で安倍総理の前に列ができるんですよ、握手を求めて。発展途上国だけではなく、先進国も含めてです。それは「はじめまして」じゃないんですよ。「この前はありがとう」というところから始まるわけです。やつぱり日本は総理大臣が1年に1回ずつ変わってきた時代がありますから。会議でイニシアチブも取れるし、外交力は目に見えて変わってきたと思いますね。



第1次政権期の「挫折」が 安倍総理をたくましくした

米田 まったく同感です。1期目とはまるっきり風貌そのものが変わってきましたね。1期目は理想に燃える青年みたいな感じもありましたが、2期目からは明らかに違います。

萩生田 あのとときは理想を全部ロケットスタートでやろうと思ったんでしょう。今回は優先順位を決めて、まずは経済だと。もちろん本当は、憲法改正など大きな日本の形づくりに取り組みたいという意欲を持ちながら、優先順位を明確に決めてやっています。

米田 自分の確信を持って、いたずらに振り回されないという自信も見えるし、本当にたくましく

うことを安倍内閣はいくつか示してきている。安倍内閣の一つの特徴だと思いますね。これまで、日本の総理はサミットでいつも脇役だとか言われてきましたよね。しかし、安倍総理になって、このところ、むしろ主役でしょう。

萩生田 今回の伊勢志摩サミットなんて、本当にアベ・イニシアチブですよ。

米田 他にも近隣諸国との問題は常にあるけれども、いたずらに屈しない、日本の国家としての基本線はきちんと守るという姿勢を相手にはつきり伝える、それを心掛けておられますね。

萩生田 特に日中・日韓のそれぞれの首脳会談が再開し始めたということも大きなことですし、昨年の年末の日韓合意も画期的でし



思えますよ。1期目をお辞めになるとき、あるメディアの幹部から「親しいあなたから電話を入れて安倍さんを励ましてあげてほしい」と言われました。僕はちやうど退陣表明の直後に電話をして、なぜもうちよつと頑張らないんだと言おうと思ったんです。でも彼は開口一番「すまん……」と言って……。会話の中身は省きますが、本人は泣き言を言わなかったけれど、相当あのときはきつかったんだね。私もそれが分かったので、「元氣になったら飯でも食いに行こう」と言いました。その後見事によみがえって、政治家として清々しい捨て身の決意で2期目に臨んでおられます。

萩生田 それと、本人がそう思っているのかどうか分かりませんが、例えば菅義偉内閣官房長官も私も地方議会出身者で、親父さん同士が知り合いだみたいな内閣じゃないんですよ。世耕弘成内閣官房副長官も、世耕さんという一族の後継ではありますけれど、もともとNITでサラリーマンをやっていた人です。そういう意味で、現場感覚をものすごく大事にしている内閣だと思います。

米田 いろいろな人に聞かれるのは、あれだけ何代も続いた名門政

た。保守派の方からは、解決済みの慰安婦問題に追い銭を渡すようなことはけしからんとご批判をいただくんですけど、長いスパンで見ると、日韓関係がいがみ合っていることであるんな国益を失っていることを考えるべきだと思います。例えば日韓が歩み寄ったことが、北朝鮮のミサイル対応などにも効果を発揮していますからね。

国民の最大公約数が納得する 部分から憲法改正の議論を

萩生田 この雑誌が出る8月にはもう結果が出ていますが、参議院選挙に何としても勝利して、憲法改正の発議までたどり着きたいと思っています。それは9条をどうするかという話や課題の残るところは国民的議論をゆつくりやってもらえばいい。ただ憲法改正というものはそんなに恐れることではないのだということを理解してもらいたいんです。だから国民が入りやすいところからぜひ発議をしたいですね。

米田 憲法をチェックし直す点はたくさんありますからね。

萩生田 特に熊本の震災を経験しますと、やっぱり危機のときにはもう少し国の責任も権限も増やし

治家のプリンスだから、さぞかしプリンスなんでしょうねと言われることです。いや、それはちよつと違う。埃をかぶった汚い焼肉屋みたいな店が好きなんだと答えると、みんな驚くんですよ。

萩生田 まったく気取りがないですよ。そして分からないことは柔軟に人に聞く方です。例えばご本人は小学校から「成蹊」なんです。教育にはとても熱心な政策をお持ちだけど、実は公立の小学校や中学校で何が起こっているのか、本人は経験がないわけです。で、私自身は公立で、子どもも地元の小学校・中学校に通っていますから、もう本当に昨日あった出来事、今まさに現場で起こっていることが総理との話題になるんです。本当にそういうことをよく聞いて政策に反映しようとされています。

経済、外交……

安倍政権がこれまで残した成果

米田 ところで私は第2次安倍内閣は目覚ましい成果を積み重ねていると思っています。もちろん批判もあっているけれど、ここ10年の過去の日本を振り返ったときに、格段に改善が行われてきている。これまでの安倍内閣の成果をもし

てもらわないと。ああいうときに

自治体まかせでは国を守れません。だからそういった条項を加えていくことや、あるいは環境権など、かつてなかったテーマについて加筆していったり、時代の変化に合わせて直していく項目など、国民の皆さんの最大公約数が納得するところから手を付ければいいのではないかと思います。

米田 僕が周りの人に説明するのは、例えば大震災が来たら、村や町の役場もなくなってしまう。市長もどこに行ったか分からない。

こういうときに総理が権限を集中的に握って必要な対応をする。こういうことだと分かりやすい。それでも野党、特に民進党の反応は……。

萩生田 安倍政権の時代には憲法改正の議論を（野党が）したくないというのはおかしい話です。

私たちは決して焦っていません。少なくとも国民投票の環境だけは一度作ってみたいと思います。

米田 ぜひ頑張っていたきたいと思えます。今日はありがとうございます。

萩生田 こちらこそありがとうございます。

——この記事は、平成28年5月30日に行われた対談をまとめたものです。

挙げるとしたら、官房副長官としてどの点を強調しますか。

萩生田 これはまだ成就したわけではないですけど、デフレからの脱却という大きな目標を掲げて、20年間停滞していた経済を何とか再興させようとして、もうちよつとで出口が見えてきたというところまで頑張ってきましたよね。株価の問題だけじゃなくて、雇用も増やしていますし、失業率も下げています。どこまで行っただって今の経済に満足するということはないから、皆さん、議会では揚げ足を取りますけど、民主党政権下では、株価は7000円代ですよ。今は倍になっているわけだし、この間に110万人の雇用を生み出してきましたからね。だからこそ労働組合の皆さんだって、安倍内閣に一定の評価をして

くれているわけです。

それと外交面の成果も著しいと思います。いわゆるトップセールスで既に海外から30兆円の受注をしているわけですから、これも大きな成果だと思いますし、外国人観光客の受け入れを増やして、1年間で2000万人まで伸ばしましたよね。

米田 政治が決意をして政策を断行すれば、結果が見えるんだとい



Vol.21 対談者 PROFILE



内閣官房副長官
萩生田 光一
ハギウタ コウイチ
1963年東京都・八王子市生まれ。明治大学商学部卒業。



公益社団法人 国際経済交流協会 会長
米田 建三
ヨネダ ケンゾウ
1947年長野県生まれ。県立大学商学部経済学科卒業後、出版社勤務。87年、横浜市会議員に当選し、93年に衆議院議員に初当選。以降3期連続当選。北海道開発総括政務次官、防衛庁政務官などを歴任し、小泉内閣では、内閣府副大臣を務めた。帝京平成大学教授を歴任後、10年5月に国際経済交流協会代表理事に就任。15年2月に同協会会長に就任。TV・雑誌等メディアでも活躍している。

歴史と文化を知り、ともに支え合う セルビアと交流を深めた学生の集い

平成28年6月20日、駐日セルビア共和国大使館にて『セルビア共和国を学ぶ学生の集い』が開催された。

冒頭の挨拶で当協会 米田建三会長は「もつとセルビアを知って

もらいたい」と切り出した。セルビア共和国との関係は衆議院議員時代より20年以上も続いており、さまざまなサポートを通して関係性を深めてきた。さらに「セルビアはバルカン半

島に位置し、数々の苦難を経験してきた国であり、若い方々にはこうした歴史背景を知り、正しくセルビアを学んでください」と結んだ。

続いてネナド・グリシッチ駐日セルビア共和国特命全権大使の挨拶では、日本セルビア協会の設立に尽力した当協会 米田会長をはじめ、来賓への謝辞から始まり、歓迎の意を示した。そして今回のイベントを企画し、運営から司会進行まで行った当協会 田邊利雄専務理事への感謝で締めくくった。

今回集まった学生は31名で、古川直季横浜市会議員のもとで勉強会に参加している学生に加え、東洋英和女学院大学 国際社会学部でセルビア共和国についても教鞭をふるっている町田小織専任講師の受講生も参加。古川議員と町田講師からお礼の挨拶が述べられた。

そしてセルビア共和国について自然・文化や国民性、産業、日本との関係などを紹介。日本ではあまり知られていない発明家ニコラ・テスラは交流電流やX線などを発明し、エジソンと並び称されていることや世界ランキング1位の男子テニスプレイヤージョコビッチ選手にも触れた。

学生からの質疑応答では

2020年のEU加盟を目指しているセルビア共和国がイギリスの離脱問題をどう捉えているかなどの質問が飛んだ。

ちなみに日本との外交は134年前の親書の交換から始まり、紛争後の日本の援助や震災後のセルビアからの早期支援といった交流もあり、良好な関係が続けている。

そしてピアノとバイオリンによるセルビア民族音楽が生演奏され、穏やかでありながら情熱的な音色に会場の全員が耳を傾けた。終盤にはグリシッチ駐日大使が自らギターを持つてのサプライズ参加となり、大いに盛り上がった。

その後、日本セルビア協会 井忠会長の乾杯の挨拶を皮切りにセルビア料理が振る舞われた。その味に舌鼓を打ちつつ、活発な意見交換や質問が飛び交い有意義な時間となった。

最後に学生からお礼の挨拶が述べられ、記念撮影で締めくくられたが、盛況のため予定時間を大幅に過ぎてからのお開きだった。

今回はTVK(テレビ神奈川)の取材としてテレビカメラも入ったのイベントとなり、華やかなものになった。

(国際経済交流協会事務局)



東洋英和女学院大学
国際社会学部
町田 小織 専任講師



古川 直季
横浜市会議員



田邊 利雄
当協会 専務理事



ネナド・グリシッチ
駐日セルビア共和国
特命全権大使



米田 建三
当協会 会長



学生からの質疑応答



セルビア民族音楽の生演奏



TVKによる取材



セルビア料理を味わいながらの歓談

「全世界空手道連盟新極真会 東ティモール支部道場設立に向けて」 伝統文化である武道を通して、青少年の健全育成を後押し そして日本文化を世界へ伝える一助となれば

平成28年7月19日から4日間、当協会 鈴木丈真代表理事と黒木久夫事務局長は一路、東ティモール民主共和国へ赴いた。目的はNPO法人全世界空手道連盟新極真会（以下、WKO）の支部道場設立のためである。

WKOは「青少年育成」「社会

貢献」「国際交流」の3つの活動方針を掲げており、世界各国へ日本文化である武道を広め、鍛錬を

通じた青少年育成を目指している。（現在93カ国・会員数約10万人）その活動に当協会も賛同し、インドネシアや東ティモールでのビジネスに精通する荒崎マリナグループ 北条茂代表の手配のもと、WKO 緑健児代表と小井泰三事務局長に同行することとなった。

成田からバリ経由で東ティモールに入り、現地滞在は約24時間。



東ティモール民主共和国青少年スポーツ省にて



国立東ティモール大学にて



在東ティモール日本大使館の皆様と



東ティモール民主共和国 レモス マンティス 国務長官とNPO法人 全世界空手道連盟新極真会 緑 健児 代表

成田からバリ経由で東ティモールに入り、現地滞在は約24時間。

短時間の滞在ながらもフィロメノ・アレイシヨ・ダ・クルス駐日東ティモール民主共和国特命全権大使の案内で青少年スポーツ省や東ティモール大学を訪問し、同国の武道熱や空手に対する関心度などについて意見交換した。そしてWKO 緑健児代表より同国での支部展開の可能性について建設的な提案を行った。

またWKOは社会貢献活動として骨髓バンクチャリティーや献血活動などを継続している。震災時には炊き出しや募金活動なども積極的に行っている。

当協会 鈴木丈真代表理事は以前からこうした取り組みに高い関心を寄せており、今後、当協会においても独自に寄贈・寄付といった活動を通して社会貢献できるよう準備中である。

（国際経済交流協会事務局）



夕日が美しい東ティモールの海岸

「横浜でハンガリー・セルビア両国の物産を出展」 『TVK2016秋じゃないけど 収穫祭』を彩った異国情緒

平成28年5月28日・29日に
横浜市中区で盛大に行われた
『TVK2016秋じゃないけど
収穫祭』。



ネナド・グリシッチ
駐日セルビア共和国特命全権大使

今年で10回
目を迎えた
このイベン
トは天候に
も恵まれ、

約14万人が来場した。

今回は「ジモトLOVE大集
合！」と銘打って行われ、野菜や
海の幸など
の食材・加
工品をはじ
め、それら
を使った料
理や、環境



コーシャ・バーリン・レイ
駐日ハンガリー大使館一等書記官

理や、環境



ナチュラルスープや手作り雑貨



セルビアブース前にて



ワインの数々



ハンガリーブース前にて



東京外国語大学の皆さん



大賑わいの両国ブース



「東京まるる」の皆さん

に配慮した雑貨などの販売、環境
関連企業・NPO団体のPR、親
子連れで楽しめるワークショップ
など、およそ100のブースのな
か、特別にハンガリーとセルビア
が出展した。

5月28日はネナド・グリシッチ
駐日セルビア共和国特命全権大使
の挨拶から始まった。挨拶のなか
で渡辺巧教横浜副市長がセルビ
ア共和国を訪問したことなど、セ
ルビア共和国と横浜市の交流に触
れた。

続いてのステージでは、東京外
国語大学の皆さんがセルビア伝統
の民族衣装に身を包み、優雅な足
さばきで民族舞踊を披露した。

5月29日はコーシャ・バーリン・
レイ駐日ハンガリー大使館一等書
記官が登壇し、「ハンガリーが誇
る世界遺産・ワイン・食のうち、
ワインと食を用意しました」と流
暢な日本語でハンガリーブースを
紹介。

続いて厚生労働大臣賞の受賞暦
もある「東京まるる」の皆さんに
より、情熱的なハンガリーの民族
舞踊が披露され喝采を博した。

両日にわたって大いに盛り上

がった『TVK2016秋じゃない
けど収穫祭』の会場にはペンギ
ンがいたり、話題のB級グルメが
販売されたりするなか、環境問題
に取り組んでいる団体のブースも
存在感を放っていた。そしてス
テージではトークショーやライブ
などのプログラムが次々と披露さ
れ、多くの観客を集めていた。

横浜スタジアム近くの日本大通
りにブースを構えた両国。国を案
内するパンフレットを手にスタッ
フの話を熱心に聞く人も多く、
「ワインが美味しかった」と声を
かける来場者もいて、高い関心を
集めた。またセルビアのジャムや
ハンガリーの蜂蜜が売り切れるな
ど、両国ともにアピールに手応え
が残ったといえよう。

ハンガリー・セルビア両国のイ
ベント参加は、当協会 田邊利雄専
務理事の発案に
よるもので、その
熱意が大使館や
スタッフへ伝わ
り、成功へとつな
がった形である。

地元のイベントでありながら、
国際色豊かな横浜らしい雰囲気にな
り、成功へとつな
がった形である。

（国際経済交流協会事務局）



田邊 利雄 当協会 専務理事(左)

寸鉄

民主主義の最大の弱点は民主主義

米田 建三

民主主義は大いなる虚構を前提にしている。有権者が政党や候補の政策を理解したうえで投票しているという虚構である。ほとんどの有権者は政策などチンプンカンプン。にもかかわらず、大学教授の一票も、参議院と衆議院の違いもよく分からないオバチャンの一票も、価値は同じである。

得票で勝ち負けが決まるから、政党や候補はとにかく有権者大衆のごきげんをとらなければならない。国家百年の計なんぞはそっちのけ。今すぐ大衆が喜びそうな政策を発する。あるいは、政治とは無縁な単に知名度の高い候補を立てて、大衆をうれしがらせる。英国の国民投票でEU離脱が決まった後、離脱派の中ですら「間違いだつた」という声があがった。こっけいなのは、「EUって何？」という質問がネット上を飛び交ったことだ。これが、民主主義なるものの現実である。

だから、利口な政治家はほんとうのことを言わないように注意する。国家にとって重大事であっても、大衆の嫌がりそうなことはごまかすか、提起を後まわしにする。無責任である。しかし、ほんとうに無責任なのは、誤っても罰せられないことをいいことに、無知を恥じず、政治の勉強もせず、研鑽を積

もうともしない大多数の大衆だ。

あるテレビ局関係者が言っていた。「大学出て入社したところは張り切つて、いろいろ考えましたが、視聴率を上げるために、どんな番組のレベルを下げて大衆向きにしなければいけません。そのうち、自分もバカになつてきて、最近じゃ本を読むのが怖くなりました。自分がバカだと思い知るから」

このテレビ局関係者を政治家に置き換えることができる。バカを操るためにバカに合せていると、自分もほんとうにバカになつてしまうのだ。

中国がいよいよキバをむきだした。尖閣列島に武装漁民が上陸し、「自国民保護」の名目で中国軍本体が上陸する日も近いかもしれない。

さあどうする、ただ「平和」を叫ぶだけで防衛体制強化に反対してきた政治家たちよ！いや、耳ざわりのいい言葉に酔つて真実から目を背けてきた国民大衆よ！

トランプが大統領になつたら、日本を放りだすだろう。日本防衛のためにアメリカの青年（アメリカ兵）が血を流そうとしているとき、それに日本がどの程度協力するか、などということは何十年も議論してきた不思議な国ニッポン。彼は間違ひなく、そういう国は嫌いなタイプだ。

edo-essay 江戸のあれこれ

江戸散策家：高橋達郎

職人さんと国民の皆様

違和感を感じる二つの言葉を挙げてみた。

江戸時代の職人といえ、大工と左官がその代表といえる。江戸の町はとにかく火事が

多かつたから、需要も高く人気もあつた。他にも、木挽き、屋根葺き、石工などの出職（現場に向かいする仕事）や、鋳職（家においてする仕事）などさまざまである。これらの職人は、10年、20年と時間をかけて一人前になつていく。

現在でも、その流れをくむ職人は活躍している。近年、どうしたことか「職人さん」という呼称を耳にするようになった。

私はこれが気持ち悪い。テレビレポーターが「江戸の匠を訪ねて……」のよな番組で、職人を紹介するシーンがこれである。敬称として「さん」を付けたのだと思うが、しつくりこない。不自然である。職人という言葉は、それだけで価値も誇りも含んでいる言葉である。敬意も含まれているようにも思えるから何か変に聞こえるのだ。



畳職人

最近ではラーメン屋でさえ職人と呼ぶ風潮がある。笑つてしまふが騙されてる気もする。もう言葉自体が崩れてしまつていくのかもしれない……。

参議院選挙が終わつた。街頭演説会で「国民の皆様！」と一生懸命訴えかけていた候補者。この表現もまた、気持ちの良いものではない。聞いている自分は国民の皆様の中の一人ということか、客でもないし国民で十分だ。せいぜい国民の皆様んくらいにしておいてほしい。国民の代表として、国を引っ張つていくべき政治家が一票欲しさに国民に阿（おもむ）いているようで気分が良くない。このような候補者の公約をどこまで信じたらよいものか迷つてしまう……。

テレビの討論番組でも、気になる言葉があつた。国会議員同士がお互い「〇〇先生」と呼び合っている。違和感を感じる。「〇〇さんじゃ、いけないのだからか。一人が相手を先生と呼ぶと、相手も先生と呼ばざるを得ない状況も分かるが、何とも滑稽だ。一方で、国会中継などを見ていると、議長は議員を「〇〇君」と呼ぶ。こちらはとても清々しい。

オランダ・ハーグの仲裁裁判所は7月12日、南シナ海の大半を支配する歴史的権利があるという中国の主張を全面的に否定する裁定を公表した。国連海洋法条約に基づく法的拘束力がある判断だが、中国は反発している。

中国海軍首脳の一入、孫建國・上將（海軍大將）は7月16日、北京で開かれた「世界平和フォーラム」で裁定を批判し、「軍事力を強化し」て「やむを得ない状況下で国家主権と権益を守るための最後の決定的な役割を發揮しなければならぬ」と演説した（7月17日配信の朝日新聞デジタル）。

戦争を辞さない構えで南シナ海支配を追求する宣言である。とても容認できるものではない。

度し難いのは、このフォーラムに出席した鳩山由紀夫元首相だ。孫演説と同じ日、南シナ海問題について「日本や米国は基本的に静観すべきで、中国やフィリピンに圧力をかけて仲裁判断を受け入れるよう促すべきではない」「当事者間の対話と協力での解決を見守るべきだ」と語った（7月16日の共同電）。

まるで中国の代弁者だ。これでは、フィリピンやベトナムは中国との2国間交渉に引きずり込まれ、泣き寝入りするしかないではないか。

鳩山氏の最大の問題は、日米にとって南シナ海問題は他人ごとすぎない

と考えている点だろう。

各国が平和に暮らしていくには、世界中の海で、「法の支配」が貫徹されていなければならない。

そして、南シナ海問題にはそれ以上の意味合いがある。日米にとって安全保障に直結する海なのだ。他人ごとどころか、生命線といつていい。

だからこそ、日米はオーストラリアなどとともに国際会議で中国を批判し、米海軍は「航行の自由」作戦を、海自は南シナ海派遣を続けている。

南シナ海とはどんな海か。

たとえば、日本の原油輸入のおよそ8割が、マラッカ海峡を経由で南シナ海を通過する。極めて重要な海上輸送路（シーレーン）であり、上空は多くの民間機の航路でもある。

もし中国が南シナ海を支配すれば、どのような嫌がらせをしてくるか分かんず、日本は劣位に置かれる。インドネシアのロンボク海峡を経て、フィリピン東方の航路へ迂回すればすむとの議論があるが、浅薄すぎる。

中国の南シナ海支配とは、米国勢力の後退をも意味するため、フィリピン自体やその東方の海域も中国の影響下に置かれるからだ。

この場合、日本が真剣に軍事力を増強しなければ、フィリピンだけでなく東南アジア諸国や日本、韓国、台湾も政治的、軍事的に「中華圏」に飲み込

まれる。属国化である。軍事上の大動脈でもある南シナ海は、西太平洋から中東までをカバーする米第7艦隊が、日本と東南アジア・インド洋・中東を行き来する主要連絡線だ。米軍には、自由貿易など世界の秩序、繁栄を支える「国際公共財」の性格がある。米軍が南シナ海を自由に使えなければ、アジアから中東にかけて世界が不安定になる。

また、相当な水深がある南シナ海が、核ミサイルを積む中国原潜の聖域になれば対米核戦力は格段に強化される。米国が日本にさしかけた核の傘が「破れ傘」になる恐れがある。日本が安住してきた戦後体制の根幹である日米同盟は形骸化する。

私たちは日頃意識しないが、核の傘という米軍の核抑止力は、日本の独立と自由、経済活動に欠かせない。それが失われれば日本は自ら核武装するか、日本に配備するか、日米共同の核戦力を構築するか、中国の影響下に入る（属国化）か、いずれかの選択を迫られるかもしれない。

他にも論点はあるが、要するに、南シナ海を「自由で平和な海」にしておくことが、日米をはじめとする諸国民の自由と尊厳ある人生にとって死活的に重要なのだ。中国の横暴を静観していれば我が身に跳ね返ってくる。

産経新聞社論説委員 榊原 智

直言

一言で「公共の場」といっても道路や駅、病院など多岐にわたります。これらは社会生活を送るうえで避けては通れません。極端なことをいえば家から一歩出ればほぼ公共の場であります。

そこでは法律により秩序が保たれています。それだけでなく一般常識やマナーによって、より快適で安心・安全な生活の土台が構築されています。

そして、これら共助・互譲の精神がもたらす親切や笑顔は日本を象徴する観光資源にさえなりつつあります。

これは文化であり教育の賜物だと思います。しかし違う環境で生まれ育った人が入り込んだり、異文化に感化されれば容易に破綻する可能性があります。

この素晴らしい環境を守るためにも青少年の教育や精神育成にも力を入れ、途切れさせない必要があります。そして共助・互譲の精神が世界にも広がることを願っています。



公益社団法人
国際経済交流協会
代表理事
鈴木 丈真

榊原 智（さかきばら・さとし）産経新聞社論説委員（政治、安全保障担当）。防衛省防衛人事審議会委員。昭和40年愛知県生まれ。東京大学文学部国史学科卒。防衛大学校総合安全保障研究科（修士課程）卒。